

文部科学省 健康教育・食育課 御中

# 学校健康診断情報のP H Rへの活用推進事業 成果報告書（概要版）

株式会社野村総合研究所

2025年3月21日



1. 本事業の背景と目的
2. 事業の全体像
3. 学校健診PHR説明会の実施
4. ヘルプデスクでの支援
5. アドバイザー派遣による個別支援
6. API連携のためのシステム改修・手動データ入力の支援
7. 保護者説明会の支援
8. 学校における各種配布物の調整
9. 今後に向けての示唆

## 1. 本事業の背景と目的

- 学校における児童生徒等（学校に在学する幼児、児童、生徒又は学生をいう。以下同じ。）の健康診断は、児童生徒等の健康の保持増進を図り、もって学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資することを目的として実施されてきた。一方、個人の健康診断結果や服薬履歴等の健康等情報を把握・蓄積することにより、日常生活習慣の改善や必要に応じた受診、医療現場での円滑なコミュニケーション等に資することが期待されており、医療・健康政策の観点から、生涯にわたる個人の健康等情報を電子記録として把握する仕組み（P H R：Personal Health Record）の構築が求められている。
- 政府としても、「経済財政運営と改革の基本方針 2023」（令和 5 年 6 月 16 日閣議決定）等に基づき P H R の推進に取り組むこととしており、文部科学省様（以下「貴省」という。）においても、「デジタル社会の実現に向けた重点計画」（令和 5 年 6 月 9 日閣議決定）など政府全体のデジタル化の方針や、「教育データ利活用に関するロードマップ」（令和 4 年 1 月 7 日）で示された教育データ利活用の方針との整合性を図りつつ、学校健康診断（学校健診）について効率的・効果的な P H R の実現に向けた取組を進めてきた。
- 貴省では、本人や保護者が学校健診結果をマイナポータルで閲覧可能とする仕組み（以下「学校健診 P H R」という。）の構築を目指し、令和 5 年度には、学校健診 P H R の導入を希望する自治体等を対象に、導入に係る総合的な支援を行うとともに、今後の本格実施に向けて、学校や学校設置者による円滑な導入を図るためのマニュアルや周知資料の作成等を行う調査研究事業を行ったところである。令和 6 年度は、令和 5 年度に作成した導入マニュアルや周知資料等を活用しつつ、学校や学校設置者に対する学校健診 P H R 導入に向けた伴走型支援等の取組を行う。

## 2. 事業の全体像

### 説明会による制度の周知

- 学校健診PHRの制度について周知することを目的に、全国の学校設置者を対象とした説明会を実施した。
- 説明会は、参加のしやすさを考慮し、ウェビナー形式で、複数の日程を設定して実施した（計3回実施）。

→「3. 学校健診PHR説明会の実施」にて詳述

### ヘルプデスクによる支援

- 学校健診PHRの導入を検討するにあたり生じた疑問を解消するために、事務局にてヘルプデスクを設置した。
- ヘルプデスクでは、常時メールによる相談を受け付けた他、必要に応じて30分程度の会議形式による個別相談会を開催した。

→「4. ヘルプデスクでの支援」にて詳述

### アドバイザー派遣による個別導入支援

- 学校健診PHRの導入を検討する学校設置者を対象に、政策的・技術的・実務的・法制的な観点からの助言を行うアドバイザーを派遣による個別支援を行った。
- 6学校設置者11学校に対する個別支援を実施した。  
（内訳は、幼稚園：1、小学校：5、小中学校：1、中学校：1、高等学校：1、大学：2）

→「5. アドバイザー派遣による個別支援」～「8. 学校における各種配布物の調整」にて詳述

### 結果の考察

- 今年度事業における成果と課題、今後に向けた示唆を取りまとめた。
- インプットとしては、説明会やヘルプデスクにおいて収集した質疑や意見、アドバイザー派遣による個別支援の経過や実施後の保護者アンケート結果等を活用した。
- また、今年度の成果を踏まえて、過年度作成された『学校健診PHR導入マニュアル』の見直しも行った。

→「9. 今後に向けての示唆」にて詳述

### 3. 学校健診PHR説明会

- 学校健診PHRの制度について周知することを目的に、全国の学校設置者を対象とした説明会を実施した。

項目	内容
実施目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校健診PHRの認知度を高め、導入によるメリットを伝える。</li> <li>• 学校健診PHRの導入に向けた総合的な支援への意向を高める。</li> </ul>
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 主に全国の学校設置者</li> </ul>
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 特定の地域に偏らず、広く全国からの参加を可能とするため、ウェビナー形式での実施とした。</li> </ul>
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 主催挨拶・学校健診PHRの政策趣旨</li> <li>• 学校健診PHRについての説明</li> <li>• 学校健診PHR伴走型支援の案内</li> <li>• 質疑応答</li> </ul>
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 令和6年7月24日（水）14:00～15:00 参加者数：164名</li> <li>• 令和6年7月29日（月）11:00～12:00 参加者数：244名</li> <li>• 令和6年8月7日（水）14:00～15:00 参加者数：266名</li> </ul>
結果の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 参加者を対象としたアンケートを実施</li> </ul>

## 4. ヘルプデスクでの支援

- 学校健診PHRについての疑問を気軽に相談できるヘルプデスクを設置し、事業期間中は、メールによる相談を受け付けた。
- メールでの問い合わせを補完する手段として、1相談者あたり30分程度のオンラインでの個別相談会を実施した。

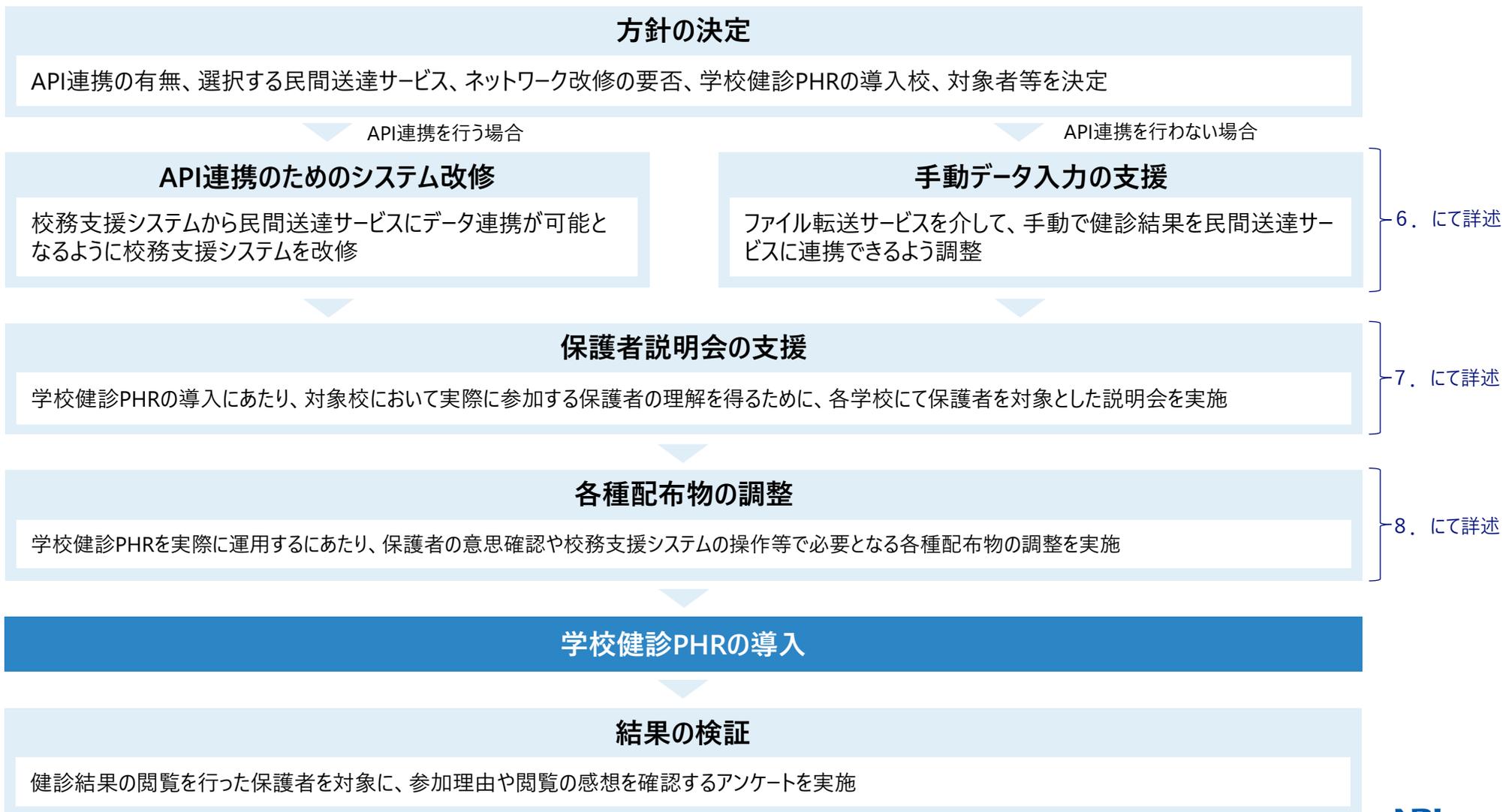
### 問い合わせ手段ごとの評価

	即時性	時間的自由度	複雑な内容伝達	同時に大量の受付	双方向のコミュニケーション
メール	△ 回答に時間がかかることがある	○ 受付時間に制約がない	○ 文章によって複雑な内容を伝達する	○ 受付に制約がない	△ コミュニケーションにタイムラグが発生する
電話	○ その場ですぐに回答することが可能	△ 受付時間に制約がある	△ 口頭で伝えられる内容には限界がある	△ 電話が繋がらない場合がある	○ リアルタイムで会話ができる
個別相談会	○ その場ですぐに回答することが可能	△ 受付時間に制約がある	○ 資料等を投影しながら説明することが可能	△ 受け付けられる枠に制限がある	○ リアルタイムで会話ができる

メールと個別相談会の組み合わせを採用

## 5. アドバイザー派遣による個別支援

- 以下の流れで、個別の学校設置者への導入を支援した。



## 6. API連携のためのシステム改修・手動データ入力の支援

- 学校健診PHRを導入する学校における校務支援システム導入有無や実施タイミング等を勘案し、API連携によるデータ連携か、手動でのデータ連携を選択した。
- API連携によるデータ連携を行う場合は、民間送達サービスとデータ連携可能となるように校務支援システムの改修作業を行った。

### API連携のためのシステム改修

- 校務支援システムから民間送達サービスにデータ連携が可能となるように校務支援システムを改修。
- 事務局では、システム改修のための調整を支援。

#### 【事務局による支援内容】

- 校務支援システムベンダー、民間送達サービスとの仕様調整
- 校務支援システムベンダーによる改修の進捗管理
- ネットワークの調整 ※必要な場合のみ実施
- 校務支援システムと民間送達サービスの外部連結テストの管理
- 校務支援システムと民間送達サービスの疎通確認

### 手動データ入力の支援

- 学校健診PHR利用希望者のリストや健診結果をExcelに入力し、マクロ等を利用してデータ化後、ファイル転送サービスを介して民間送達サービスに送付。
- 事務局では、ファイル転送サービスの初期設定等を支援。

#### 【事務局による支援内容】

- ファイル転送サービスの初期設定支援
- 健診結果の送付にあたっての民間送達サービスとの調整

## 7. 保護者説明会の支援

- 学校健診PHRの導入にあたり、対象校において実際に参加する保護者の理解を得るために、各学校にて保護者を対象とした説明会を実施した（大学は未実施）。

### 保護者説明会の実施例

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校健診PHR導入の概要案内</li> <li>保護者へのご依頼事項・今後のスケジュールのご説明（利用可否の検討、利用登録、閲覧など）</li> <li>保護者の疑問点・不安の解消</li> </ul>
会場	導入予定の学校設置者
参加者	保護者
担当者	学校健診PHR事務局、民間送達サービス事業者

アジェンダ	#	実施内容	所要時間
	①	学校健診PHR事業概要のご説明	5分
	②	PHR事業におけるマイナンバーカード、マイナポータルのご紹介	
	③	マイナポータル閲覧画面イメージのご紹介	
	④	利用開始までの流れ、利用しない場合の対応等のご説明	10～15分
	⑤	操作説明会実施のご案内	
	⑥	質疑応答	15分

### 保護者説明会資料（ひな形）

●●御中

## 学校健診PHR事業について

「学校健康診断情報のPHRへの活用推進事業」受託事業者  
(●●●●)

20xx年x月x日

これまで、健康診断の結果は、健康ノートなどへ手書きされたり、紙面によって配布されてきました

学校健診PHRが導入されると、マイナポータルを通じて、お手元のスマートフォンで健康診断の結果を確認することができます

「各個人（保護者や児童等）に直接情報が届くものであるため、民間送達サービス事業者や国が健康診断結果情報を収集する仕組みとはなっていません。

■ 利用を希望しない場合は、どのように健診結果を受け取れるのでしょうか？  
→ 利用を希望されない場合は、紙で健診結果を交付いたします。

## 8. 学校における各種配布物の調整

- 学校健診PHRを実際に運用するにあたり、保護者の意思確認や校務支援システムの操作等で必要となる各種配布物の調整を実施した。
- 必要に応じて、相談の受付や対面での操作説明等、アドホックな支援も行った。

### 作成を支援した配布物

#### 学校健診PHR利用申込書

- 学校健診PHRへの申し込み意向を確認するために保護者に送付する書類

#### 校務支援システム操作マニュアル

- 学校健診PHR用の校務支援システムを操作するために教職員が利用するマニュアル  
手動でデータ連携を行う場合は、ファイル転送サービスの利用マニュアル

#### 民間送達サービス利用マニュアル

- 学校健診の結果を保護者が手元のスマートフォンで確認するための利用マニュアル

### アドホック支援

#### 保護者向け操作説明会

- 民間送達サービスの利用マニュアルのみで操作を行うことに自信のない保護者を対象に、操作説明会を実施
- 学校の負荷を軽減するために、保護者は任意参加

#### データ送付支援

- 手動でデータ連携を行う際に、一部の学校にてファイル転送サービスの操作を現地にて支援

#### 校務支援システム操作についての質問受付

- 校務支援システムを操作する中で発生する疑問等について、事務局にて質問受付のための窓口を設置

## 9. 今後に向けての示唆

### ■ 周知広報の充実

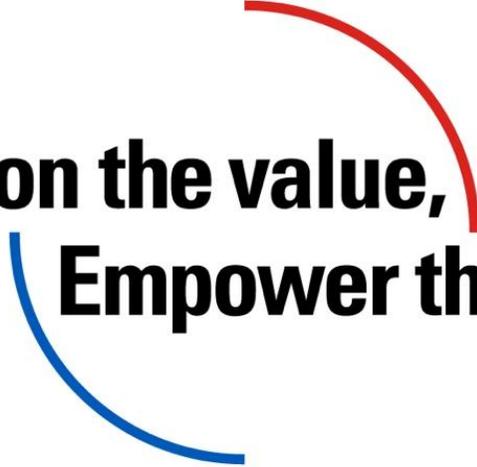
- 本事業においては、PHRについての認知度の低さに伴う課題が数多く挙げられていた。今後の導入事例を増やすために、まずはPHRそのものの認知度を高めることが不可欠である。そのため、今後はPHRの内容やメリットについて周知広報を充実させることが重要である。また、単にPHRの内容についての周知を行うのみならず、導入事例についての公表を望む声も大きい。
- 加えて、校務支援システムベンダーにおける認知度の低さから、学校設置者側が校務支援システムベンダーに相談しても、そのまま検討が進まないケースがあった。そのため、校務支援システムベンダーとの連携を円滑にするための情報を学校設置者に提供することも有効と考えられる。

### ■ 伴走型支援による導入事例の拡充

- 本事業においては、導入事例の少なさに伴う情報の不足等についての指摘が目立った。そのため、今後は学校の種別や規模、その他の状況等、様々なケースの事例を数多く収集し、適時公表を行うことが有効である。また、制度そのものの魅力についても、全国での導入が進むことによって解決する論点が多い。そのため、伴走型支援による導入事例の拡充が継続して求められると考えられる。
- 加えて、学校設置者における手間やコストといった負担が依然として学校健診PHR導入にあたっての障壁であるため、アドバイザー派遣や経費支援といった伴走型支援が有効であるとともに、学校健診PHRを単に健診結果の配布手段にとらえずに、広く教育現場における学校・学校設置者と生徒児童とのコミュニケーションに活用した事例の創出も有効ではないか。

### ■ DX化の進捗に応じた対応

- 今後、政府全体でのデジタル化が進む見込みであり、それに伴い学校健診PHRのメリットも増加していくと考えられるため、それらと併せた情報提供が有効と考えられる。
- 学校健診PHR導入の事例を通じて、より活用し易いPHRの仕組み等について、引き続き検討が必要ではないか。



**Envision the value,  
Empower the change**